



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 246

2017/05/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

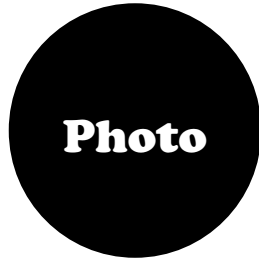
GREEN COLUMN

01. 農業用水路のトビケラ

02. 身近な毒草スズラン



今月の一枚



「金色の花びら」

表紙写真・文／鬼丸和幸

道路もない山深い沢沿いに、エゾノリュウキンカの花を見つけました。かつては、市街地周辺の水辺で見ることができましたが、最近では、その姿を見つけるのが難しくなりました。春の柔らかな日差しの中で、存在感のある黄色の花びらが、金色に輝いて見えました。エゾノリュウキンカは、別名“ヤチブキ”（谷地にあるフキ）とも呼ばれています。

Event. 今月のイベント

企画展「相生線で Go!」 ～7月2日（日）

無料開館「こどもの日」 5月5日（金）

プチ工房「相生線をつくろう」 5月10日（水）, 12日（金）

モノ作り講座「ミニ盆栽をつくろう」 5月27日（土）

Information. 参加者募集

無料開館 「こどもの日」

● 5/5（金）9:30 - 17:00 かしわ餅の無料配布（先着 500 名）, 昔なつかしいせんべい焼き体験, 紙コップのおばけ作り, 企画展展示解説 ●美幌博物館 ●無料（常設展示室も無料でご覧いただけます） ●美幌博物館 職員 ●申込み不要

プチ工房 「相生線をつくろう」

● 5/10（水）, 12（金）10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（300 円） ●町田善康（美幌博物館） ●申込み不要。小学校 3 年生以下は保護者の同伴が必要。

モノ作り講座 「ミニ盆栽をつくろう」

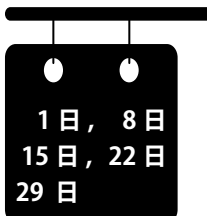
● 5/27（土）【午前の部】9:30 - 12:00 【午後の部】14:00 - 16:30 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料代（500 円） ●町田善康（美幌博物館） ●美幌博物館へ電話申込み（5/2 - 5/24）。対象は幼児から一般, 小学校 3 年生以下は保護者の同伴が必要, 各回定員 20 名で締切。

展示ガイド（英・中・韓国語）ができました！

博物館の展示について外国語（英・中・韓国語）で解説した「展示ガイド」ができました。外国語を必要とされるお客様へ、受付で無料配布いたします。



今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

身近な毒草 スズラン

写真・文／城坂結実



先月号で、食べられる草「山菜」について書きました。今月も引き続き山菜シーズン真っただ中の美幌町ですが、今月は絶対に食べてはいけない草花をご紹介します。

スズランはその名の通り、白い鈴のような可愛らしい花を咲かせますが、強い毒を持っています。美味しい山菜の一つであるギョウジャニンニクと似ているので、間違えて食べてしまい、死亡したケースもあるようです。ギョウジャニンニクを採るときは、スズランと間違えていないか確認が必要です。ギョウジャニンニクは、採ったときに強いニンニクの香りがするので、見分けるポイントとなります。

毒があるとはいえ、スズランはとてもかわいらしく、人気のある花です。札幌市のように、スズランを自治体の花としているところも、数多くあるようです。美幌町でも、住宅街を歩いて

いると、道ばたの花壇などでよく見かけます。しかしこれは、ドイツスズランという、園芸用に販売されているヨーロッパ原産のものです。

北海道の森に自生するスズランは、花が葉より下にあり、花があまり目立たないと言われます（写真）。美幌町では、美富自然公園やみどりの村森林公園で見ることができますので観察してみてください。

このスズラン、以前はユリ科に分類されていましたが、近年、APG IIIという分類体系でキジカクシ科になりました。身近なところでは、アスパラガスもキジカクシ科です。アスパラガスは食べられますが、くれぐれも、スズランは食べないように。

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム

農業用水路の トビケラ

写真・文／鬼丸和幸



稲美地区にある農業用水路。この用水路の一部区間は、人工護岸されていないこともあり、用水路内には、様々な水生の生物たちが暮らしています。

4月に入り、暖かい日が続くようになると、用水路を埋めていた残雪も解け、雪解け水がたまるようになります。そこで、用水路内でどんな生きものが見られるのか観察してみました。

水底を見てみると、細長いヤドカリのような動きをするカクツツトビケラ科の幼虫が、さかんに水底を動いていました。幼虫は、水底にたまった砂や落葉などを利用して筒状の巣を作り、自分の体を巣の中に入れて、巣ごと一緒に動き回ります。トビケラの種類によって巣材は様々で、砂、植物片、小石、時にはプラスチックの破片なども利用することがあります。それぞれの材料を利用して作られた巣は、円柱

型、角柱型、はたまた布団型…と、実にユニークな形をしています。その一部は、美幌博物館の展示室で紹介していますので、ぜひご覧ください。

トビケラの幼虫は、自分の口から糸を吐き出して、材料をセメダインのように接着しながら巣を作ります。近年では、このトビケラが吐き出す糸が、水の中でも優れた接着効果を持つことから、工業用材料として研究されています。

生きものの体には、自然界の英知が結集しているのかもしれませんが。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....

昨シーズンの冬は、念願になって藻琴山へ登頂することができました。雲一つない青空の下、屈斜路湖を眺めながらの冬登山は最高でした。色々な花に出会える、春から秋にかけても好きですが、やっぱり冬の北海道は最高！今から、次の冬が待ち遠しくなってしまう。 (城坂)